

ユビキタス社会の実現に向けた 未来情報通信医療社会基盤センターの設立と事業推進

(センター長; 河野隆二)

本学を中心とし情報通信研究機構と横浜市立大学医学部との連携により、工学研究院、環境情報研究院を中心として平成17年9月に、全学組織として未来情報通信医療社会基盤センター(医療ICTセンター)を設立しました。これは、平成14年度に採択された文部科学省21世紀COEプログラム「情報通信技術(ICT)に基づく未来社会基盤の創生」拠点の発展として位置づけられます。

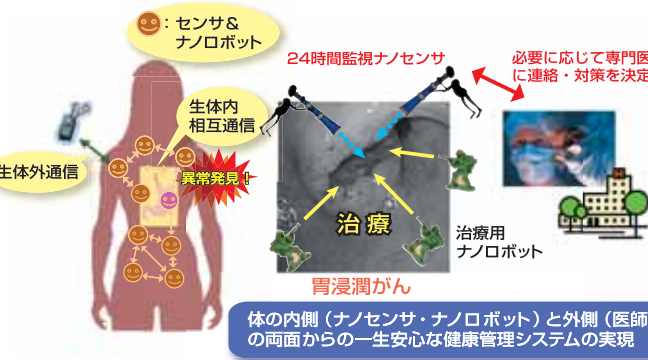
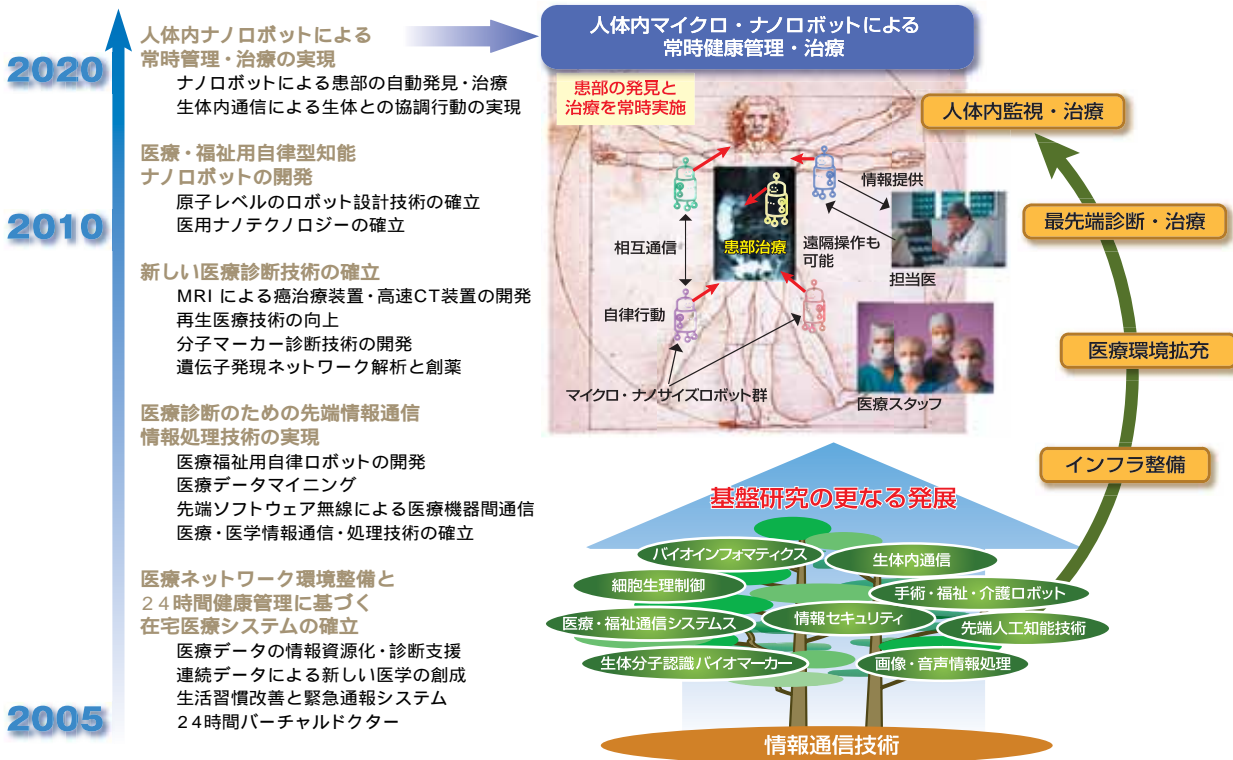
「情報通信技術に基づき、金融、交通、エネルギーばかりではなく医療・福祉などの未来情報社会基盤創生」のための基礎理論、先端技術の研究開発とそれを通じた実践的高度教育の事業を推進することを目的としています。

情報通信技術に優れる本学が中心となり、神奈川県医療の中心である横浜市立大学と、本学との包括協定締結により密に人的交流する情報通信研究機構の豊富な設

備、資金、人材を活用し、横須賀リサーチパーク(YRP)などを利用して地域連携し、従来の医工連携ではなく情報通信技術に基づく医工連携により、ブロードバンドネットワークやセキュリティ技術などを駆使して、横浜市、神奈川県をモデル地域としたユビキタス医療情報ネットワークを実現します。

本学の各部局より55名の教員の兼業と1名の専任教員により、通信ネットワークの創生部門、先端エレクトロニクスの創生部門、情報通信基盤技術の創生部門、医療情報システムの創生部門の4部門が構成され、先端的な情報通信・情報工学技術と医療・医学の融合による先端研究開発とそれを通じた大学院生の実践的な高度教育を下記の課題を中心に推進しています。

情報通信技術に基づく未来医療情報社会の創生計画



インプラント万能センサ (医療情報システムの創成部門の将来の実現目標例)

UWB無線通信とセンサーネットワーク技術に基づき、体内で健康状態を常時監視し、疾病の予防、患部の治療を行う、多機能センサと知的マイクロ/ナノロボットとの分散協調システム。近未来の究極的健康監視システム。

2005 Highlights